

私のスキー史に関する報告

新井 博¹⁾

A report of about my study of skiing history

Hiroshi Arai

Key words : スキー, 歴史, 研究, 日本, オーストリア

1. はじめに

私は20年ほど前にスキー史の研究を始めた。きっかけは、大学への就職によって雪のない関東から雪国の福井県に移ってスキーの文化に触れたことである。関東では見られないスキー教育、スキー産業、レジャー等が、人々の日常にすっかり溶けこんでいることに驚いた。身近にある大小のスキー場、当前のスキー講習、初めて見たスキー用具製作所、大きなスキー客用ホテル、冬だけのスキーバス等、まさにスキーを中心にした文化圏が広がっていたのである。この環境のなかで、スキーを文化として捉えることから、スポーツの本質に迫りたいと考えたのである。

従来、自分の専門はスポーツ史であり「スポーツの普及」についての原理的解明を目的としてきた。「何故、スポーツは人々に広く普及してきたのか」そのメカニズムを歴史的に解明することに努めてきた。つまり、スキーという一つのスポーツに着目し、歴史の側面から普及のメカニズムについて研究してきたのである。

以下では、この間行ってきた研究の方法について報告する。研究の成果については、別の機会にゆずりたい。

2. 普及についてのスキー史研究の方法

スポーツがある地域で紹介され普及するには、紹介するパイオニアの存在や、スポーツを広める

クラブ等の組織が必要である。さらに、組織が人々に用具を供給し、またスポーツをする場所を確保することによって普及が進展する。つまり、普及には(1)パイオニア、(2)組織、(3)用具の供給、(4)場所の確保といった4つの条件が必須となる。

日本とオーストリアの普及について、国のレベルでの普及、県のレベルでの普及、地域のレベルでの普及の3つの側面から、上記の仮説の立証に努めてきた。国のレベルとは、日本やオーストリアにスキーが初めて紹介された時のことである。県レベルとは、日本国内では、樺太、北海道、青森県、新潟県、長野県、富山県、福井県といった降雪地方の県レベルでのことである。地域レベルとは、福井県であれば、福井市、大野、鯖江、武生といった地域のことである。オーストリアでの県レベルとは、全体の州である。また、地域レベルとはシュタイヤーマルク州であれば、ムルツツーシュラークやマリアアッセルといった地域である。

3. 国・県・地域レベルでの普及の研究

(1) パイオニアについての研究

スキーにおけるパイオニア研究の目的は、明確なパイオニア像を構築することである。具体的に言えば、日本における国レベルでのパイオニアはテオドール・フォン・レルヒ少佐である。県レベルのパイオニアは、福井県では教師桑原耕太であ

1) 生涯スポーツ学科

る。地域レベルでのパイオニアは、福井県の大野では桑原耕太である。

オーストリアにおける国レベルでのパイオニアは、スキー家マチアス・ツダルスキー。州レベルのパイオニアとなれば、シュタイヤーマルク州の場合は、冒険家のトニー・シュルーフ。地域レベルのパイオニアとなれば、ミルツツァーシュラークのシュルーフである。

各パイオニアについては、以下について解明してきた。本人はスキーについて如何なる経験を持ち、どのような紹介を行ったのかについて明らかにしてきた。またパイオニアの生涯については、誕生してから死去するまでの歩みについて解明してきた。

(2) 組織についての研究

スキークラブや学校等の組織が、スキー普及の原動力となってきた。そこで、それらの組織について、誕生・目的・構造・活動の側面から解明してきた。クラブの場合は、目的、規約、会員等について、学校であれば、指導した教師やスキーの授業等について解明してきた。

具体的には、日本における国レベルでの組織としては、軍隊や越信スキー倶楽部等であった。県レベルでの組織であれば、福井県の場合福井県スキー倶楽部や師範学校等であった。地域レベルの組織であれば大野スキー倶楽部や学校等であった。

オーストリアにおける場合、国レベルでの組織は、リリエンフェルトのアルペンスキークラブである。州レベルであれば、ミルツツァーシュラークスキークラブである。地域レベルとなれば、やはりミルツツァーシュラークスキークラブとなる。

活動については、講習会、競技会、ツアー、授業等について、国レベルの組織活動の場合、また県レベルの組織活動の場合、さらに地域レベルの組織活動について解明してきた。

(3) スキー用具供給についての研究

スポーツ活動の成立には、使用する用具が不可欠であり、普及には用具供給が必須である。用具供給の研究の目的は、製造販売業の誕生や製造と販売に焦点を当てることになる。

具体的には、日本の国レベルの供給を行う製造販売業としては、新潟県の田中鉄工場である。また、県レベルの供給を行う製造販売業では、福井県の尾崎スキー製作所や菊川スキー製作所であった。さらに、地域レベルの供給を行う製造販売業となれば、福井県では広川スキー製作所や中西スキー製作所であった。オーストリアの場合は国レベルでのスキー用具供給組織はなく、全体的に地域の大工がスキー用具を供給していた。

(4) スキー場に関する研究の要旨

スキー場もスキー活動には不可欠であり、普及における重要な要素である。そこでスキー場の誕生、施設、利用の様子についても解明してきた。

具体的には、国レベルの普及に際して使われたスキー場としては、新潟県高田の金谷山であった。また、県レベルの普及に際して使われたスキー場としては、福井県であれば大野の六呂師高原である。地域レベルの普及に際して使われたスキー場としては、福井市であれば足羽山になる。

オーストリアでは国レベルでのスキー場としては、リリエンフェルトのムッケンコーゲル山などである。また州レベルではミルツツァーシュラークの丘陵地帯やウィーン西部の丘陵地帯であった。

4. まとめ

今回は、与えられた時間の関係から研究の方法のみの紹介となってしまった。

現在は、まだこのテーマでの研究の途中であるが、スポーツの普及には、何処の国でも地域でも、基本的にはパイオニア、組織、用具の供給、場所の要素が不可欠であるといえる。